

## 令和4年度 第2回 東京都教員育成協議会 会議要旨

- 1 日 時** 令和4年12月23日（金）午後2時から午後4時まで
- 2 会 場** 都庁第一本庁舎42階特別会議室A及びオンライン開催
- 3 出席者** 藤井委員（会長）、小寺委員（副会長）、佐々木委員、増淵委員、吉川委員、加藤委員、中村委員、秋山委員、並木委員、野村委員、田中委員、中嶋委員

### 4 議事内容

#### (1) 「東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標」の改定について

- 国から示した指針等と概ね整合がとれていると考える。指標の中身についても十分に色々な要素が入っていてよい。
- 「東京都の教育に求められる教師像」については、記載順を見直すことで、優先すべき項目を明確に示すべきである。
- 服務に関する記述が教諭・基礎形成期の「学校運営力・組織貢献力」にしか出てこない。また、「服務等の理解に努め、」という文言だけでよいか。服務の厳正ということを基礎形成期に徹底しなければいけない。
- 「教育課題に関する対応」についての記載が、教員にはあるが、教育管理職等にはない。教育課題に対して管理職がもっと敏感にならなければいけないのではないか。
- 教育管理職候補の「教育者としての高い見識」には、「教育目標や教育施策について学び」とあるが、教育管理職候補は、もはや学ぶ段階ではないと考える。

#### (2) 「令和5年度東京都教員研修計画」の策定について

- 研修計画は人材育成、管理の観点で活用している。職層毎に記載されており、教員がイメージしやすい作りになっていてよい。
- 研修奨励は大事であるが、奨励するにあたって、教員が研修する時間を確保できるかという問題がある。時間がしっかり確保した上での奨励でないと、奨励自体が負担になる。業務をマネジメントし整理することにより、研修できる環境を作ることが大事である。
- 研修を企画する指導主事の育成もしていかなないと研修が充実しないと感じる。
- 教員が日頃の授業や学校生活で研修の内容をどのように活用していくかというフォローアップが必要である。現在の自己申告の面接等において、マイ・キャリア・ノートを見ながら話し合うことが必要であると感じる機会が多々あった。
- 研修を通して、力が身に付いたかをどのように評価するのかが課題である。研修の評価（時間は適切であったか。講師の話は参考になったかなど。）だけでなく、本人の研修受講の成果についての評価があってもよいのではないか。